

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第3区分

【発行日】平成21年8月6日(2009.8.6)

【公表番号】特表2008-546555(P2008-546555A)

【公表日】平成20年12月25日(2008.12.25)

【年通号数】公開・登録公報2008-051

【出願番号】特願2008-518408(P2008-518408)

【国際特許分類】

B 2 4 D 11/00 (2006.01)

B 2 4 D 3/28 (2006.01)

C 0 8 G 59/32 (2006.01)

C 0 8 F 290/06 (2006.01)

【F I】

B 2 4 D 11/00 B

B 2 4 D 3/28

B 2 4 D 11/00 Q

C 0 8 G 59/32

C 0 8 F 290/06

【手続補正書】

【提出日】平成21年6月18日(2009.6.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

主表面を有する裏材と、前記主表面の少なくとも一部に固定された裏材処理剤と、前記裏材処理剤の少なくとも一部に固定された研磨層とを含む被覆研磨物品であって、前記研磨層が研磨剤粒子とバインダー樹脂とを含み、前記裏材処理剤が次の構成成分a)~g)の総重量に基づいて、

a)エピクロロヒドリンとビスフェノールAまたはビスフェノールFのうち少なくとも1つとの反応によって調製可能な少なくとも1のポリエポキシド 1~12%、

b)ホモ重合することで摂氏50度未満のガラス転移温度を有するポリマーを生じる少なくとも1つの多官能性ウレタン(メタ)アクリレート 70~90%、

c)少なくとも1つの非ウレタン多官能性(メタ)アクリレート 1~10%、

d)少なくとも1つの酸性のフリーラジカル重合性モノマー 1~10%、

e)ジシアンジアミド、

f)光開始剤、および

g)任意のエポキシ硬化触媒

を含む等方性裏材処理前駆体を少なくとも部分的に重合することによって調製可能である被覆研磨物品。

【請求項2】

次の構成成分a)~g)の総重量に基づいて、

a)エピクロロヒドリンとビスフェノールAまたはビスフェノールFの少なくとも1つとの反応によって調製可能な少なくとも1つのポリエポキシド 1~12%、

b)ホモ重合することで摂氏50度未満のガラス転移温度を有するポリマーを生じる少なくとも1つの多官能性ウレタン(メタ)アクリレート 70~90%、

- c ) 少なくとも 1 つの非ウレタン多官能性 ( メタ ) アクリレート 1 ~ 1 0 % 、
- d ) 少なくとも 1 つの酸性のフリーラジカル重合性モノマー 1 ~ 1 0 % 、
- e ) ジシアンジアミド、
- f ) 光開始剤、および
- g ) 任意のエポキシ硬化触媒

を含む裏材処理前駆体を裏材の少なくとも一部に配置する工程と、

前記裏材処理前駆体を少なくとも部分的に重合する工程と、

前記の少なくとも部分的に重合した裏材処理前駆体上に重合性メイク樹脂前駆体を配置する工程と、

前記メイク樹脂前駆体中に研磨材粒子を少なくとも部分的に埋め込む工程と、

前記メイク樹脂前駆体を少なくとも部分的に重合する工程と、

を含む、被覆研磨物品の製造方法。

#### 【請求項 3】

次の構成成分 a ) ~ g ) の総重量に基づいて、

- a ) エピクロロヒドリンとビスフェノール A またはビスフェノール F の少なくとも 1 つとの反応によって調製可能な少なくとも 1 つのポリエポキシド 1 ~ 1 2 % 、
- b ) ホモ重合することで摂氏 5 0 度未満のガラス転移温度を有するポリマーを生じる少なくとも 1 つの多官能性ウレタン ( メタ ) アクリレート 7 0 ~ 9 0 % 、
- c ) 少なくとも 1 つの非ウレタン多官能性 ( メタ ) アクリレート 1 ~ 1 0 % 、
- d ) 少なくとも 1 つの酸性のフリーラジカル重合性モノマー 1 ~ 1 0 % 、
- e ) ジシアンジアミド、
- f ) 光開始剤、および
- g ) 任意のエポキシ硬化触媒

を含む裏材処理前駆体を裏材の少なくとも一部の上に配置する工程と、

前記裏材処理前駆体を少なくとも部分的に重合する工程と、

前記の少なくとも部分的に重合した裏材処理前駆体上に重合性バインダー前駆体と研磨材粒子とを含むスラリーを配置する工程と、

前記バインダー前駆体を少なくとも部分的に重合する工程と、  
を含む、被覆研磨物品の製造方法。